

進捗状況報告シート

(2010年度・大学)

担当部局は☆印の箇所を記入のこと。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	言語コミュニケーション文化研究科
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部)

II. 自己点検・評価《進捗状況報告》

【現状の説明】

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定した。

目標の進捗状況は「A:適切に実行している」「B:概ね実行している」「C:必ずしも実行していない」「D:実行していない」とし、自ら評価した。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
1. 2013年度を目標に言語文化学(東アジア)プログラムを開設する。	→東アジアプログラムの開設、履修者数。	A
2. 2008年度に新設した日本語教育プログラムを充実させる。	→日本語教育プログラムの改訂、履修者数。	A
3. 2013年度を目標に、外国人留学生を対象にした英語のみで修了できるコースを設置する。	→英語のみで受講できる学習支援方法の開発。	A
4. 社会人学生に対する学習支援方法を開発、適用する。	→指導体制の充実化、社会人対象のプログラムの実施。	B

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価
	→	☆
	→	☆

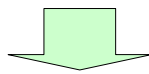
《小項目ごとの現状説明》 ※ 全小項目について記述が必要

☆ 小項目6.2.1	(方針)各領域が求める教育目標が達成できるように授業科目を開設し、メインメニューだけでなく、サイドメニューも充実した教育課程を体系的に提供する。 (現状説明)各領域に必要とされる授業科目は、サイドメニューを含め体系的に開設。これまでの教育課程をより充実させるために、言語文化学領域には東アジアプログラムやそれに関連する中国語のコミュニケーション能力養成科目を新設し、日本語教育学領域には日本語教育研究の科目(H)を増設した。研究演習と課題研究の関係を5:1に維持しているため、適切なバランスを保っている。
☆ 小項目6.2.2	(現状説明)各領域の専門性を中心に教育課程を編成し、学生に提供している。学生の学位論文からもわかるよう必要とされる高度で専門的な教育内容は、提供している授業科目を通して体得されている。
☆ その他	

◎効果が上がっている事項

【点検・評価 (1)】効果が上がっている事項

小項目6.2.1	院生の専門知識が明らかに幅広くなり、思考力や分析力も入学時に比べて顕著に増加。学会や研究会での発表にもそれが投射されている。
★小項目6.2.2	東アジアプログラム及びそれに関連する中国語のコミュニケーション能力養成科目の新設や日本語教育研究の科目(H)の新設によって、それぞれの分野により相応しい授業科目が提供されるようになっている。
その他	



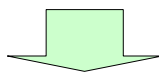
【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

小項目6.2.1	日本語教育学の領域を研究分野に基づき細分化し、それに伴う科目の設置や教育課程の編成を強化する。よりわかりやすい形での体系化をめざす。
★小項目6.2.2	各領域間の関連性を中心に、メインメニューとサイドメニューの関係をより丁寧に説明する。教育課程を体系的に編成するだけでなく、学生の履修する科目も体系性を持たせるようにする。
その他	

◎改善すべき事項

【点検・評価 (2)】改善すべき事項

小項目6.2.1	博士課程後期課程の秋学期入学制度の導入を目指しているため、それに先だって既存の授業科目との整合性を踏まえた上で、教育課程の体系を再構築する必要がある。
★小項目6.2.2	英語のみで受講できる授業科目が少ない。言語文化学領域や日本語教育学領域においては、授業科目の充実が必要。
その他	



【次年度に向けた方策(2)】改善方策

小項目6.2.1	カリキュラム委員会を中心に、既存授業科目を生かした教育課程体系の再構築について一年をかけて議論し、4月入学も9月入学も、同等でなおかつ体系的に専門科目を履修することができるように授業科目を配置する。
★小項目6.2.2	英語のみ受講できる授業科目を新設。修了要件としての30単位は英語のみでも修得できるようにする。言語文化学領域において、バランス上補充すべき授業科目を新設。日本語教育学領域を再編した上で授業科目を増設し、より合理的な授業科目の体系化を図る。
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	
----------------	--

Ⅲ. 学内第三者評価

<評価推進委員会からの評価> (実務作業は評価専門委員会、評価情報分析室、企画室)

【学外委員】

○この項目に限らず、記述が適切・丁寧で具体的に長所や問題点・対応策が捉えられている点は高く評価できます。進捗状況についても評価できます。

【学内委員】

○2013年度が達成目標である項目の進捗評価は「A」となっていますが、その評価基準を再度記します。その評価基準で再度ご検討ください。「A：目標実現のための企画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。」(6月15日付けQ&A)

なお、教育課程は体系的に編成されており、優れた内容です。

○小項目6.2.2の現状説明の後半の記述については、やや文意がわかりにくいところがあります。

Ⅳ. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★言語文化学(東アジア)プログラムの開設年度については、2009年度に設定した「目標」では2013年度としていたが、予想以上に早く準備が整い、2011年4月より開設することとなった(学則改正済)。したがって、進捗評価をAとした。

V. 本項目の評価指標

<全学的な指標>

6.2.0.S1	カリキュラムの編成や体系等を常に検討する委員会の有無と開催頻度
6.2.0.S2	MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
6.2.0.S3	ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
6.2.0.S4	専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

<個別的な指標>
